

競技規則及び方法 (2025 年度版)

* 1.(1) (2) 【 】内は学童部適用

1. 大会特別規則

- (1) 競技場の規格については、塁間距離を25【23】m、投手プレート・本塁間距離を17【16】m、
【両翼70m・センター85m】とする。球場ルールにあわせて、外野仮設コーンを設置する。
- (2) 試合は7回戦【6回戦】とし、試合時間は1時間40分【1時間30分】とする。
同点の場合においても、7回戦【6回戦】および試合時間によって試合終了とする。
- (3) 試合時間の判定については、当該審判員に一任する。
- (4) コールドゲームは、5回終了時7点差とする。
- (5) 降雨等により試合継続が困難となった場合、5回終了以降は正式試合とする。
- (6) 抗議権を有する者は、監督、当該プレーヤーのうち1名とする。
- (7) 守備側のタイムの回数制限
 - ① 監督またはコーチ等が1試合に投手の所へ行ける回数は3回までとする。(5.10 l (2)は適用しない)
投手交代の場合、投手と捕手の打ち合わせ(サインの確認)のために、準備投球の前あるいは後に少しだけ会話することは、捕手または内野手の回数に含まない。
 - ② 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は3回までとする。
野手（捕手も含む）が投手のところへ行った場合、そこへ監督またはコーチ等が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とする。
投手交代の場合は、監督またはコーチのみ回数には含まない。
- (8) 攻撃側のタイムの回数制限
攻撃側のタイムは、1試合に3回までとする。
- (9) 投手の12秒及び20秒ルールは採用しない。
- (10) 監督またはコーチは、コーチスボックスに出ることは禁止する。
- (11) 塁上の走者、あるいはコーチスボックスやベンチから守備側(捕手)のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
- (12) 試合中の言動等は充分注意すること。投手が投球動作に入ったならば声を出すことを禁じる。
- (13) 本規則に定められていない事項が生じた場合は、審判員協議の上、大会審判長の権限により処理する。

2. 危険防止のため次の用具を使用する。

- (1) 打者用ヘルメットは必ず用意し、打者・次打者・走者・ベースコーチは必ず着用する。
- (2) 捕手は捕手用ヘルメットを着用する。捕手用ヘルメットはマスクを分離したものが望ましい。
また、プロテクター・レガースは必ず着用する。
- (3) 上記の各用具及びバットは、(公財)全日本軟式野球連盟公認の物を使用する。
- (4) 素振り用の鉄棒（鉄パイプを含む）・バットリング・長尺バットは使用してはならない。

3. 競技運営に関し、次のことを規定する。

- (1) 試合中のダッグアウト（ベンチ）の中に入れる人員は次の通り、「参加申込書」に記載された監督・コーチ2名・マネージャー・スコアラー・トレーナー各1名と選手10名以上とする。
- (2) 背番号は、監督30番、コーチ29番、28番とし、選手は0番から99番とする。
なお、メンバー表に記載する際は主将の背番号を○で囲むこと。
- (3) 合同チームで出場する場合、元のチームのユニフォームでの大会参加を認める。
- (4) 監督・コーチが選手として出場する場合は、「参加申込書」の選手欄にも必ず記載する。
- (5) ダッグアウトの中で電子機器類（携帯電話、パソコン等）を使用することは禁止する。
電子スコア記録用として1台認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。
- (6) ダッグアウトは、組み合わせ表の左側の方を1塁側とする。
ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしない。
- (7) 試合前のシートノックは5分間とする。ノッカーも必ずユニフォームを着用すること。
但し、シートノックなしで試合を開始することもある。また、シートノック中のベンチ前等でのノックは禁止とする。
- (8) 球場内でのフリーバッティング練習は認めない。
グラウンド内での練習は、ランニング・キャッチボール・トスバッティング程度に限る。
- (9) 各部門 第1試合のチームは、開始予定時刻30分前にグラウンド中央までメンバー表を持参し、攻守の決定を主将によって行う。
第2試合以降は、前の試合終了10分後、グラウンド中央で、攻守の決定を主将によって行う。
※連続して試合を行わないチームは、事前にメンバー表を審判室まで持参すること。
メンバー表の用紙は、大会本部で用意した用紙を使用する（大会本部まで取りに来る）。
- (10) 投手は、いずれの手、指または手首に何もつけてはならない。なお、負傷等でテーピング等を使用したい場合は、審判員の承認が必要である。
- (11) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (12) ボールパーソン及びグラウンドキーパーは、対戦チームが担当する。
- (13) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (14) 雨天の場合でも、日程の都合上 球場が使用可能な状態の場合は、基本的に試合を行う。

用具等の使用について (2025 年度版)

1. エルボーガード・レッグガードの使用について

エルボーガード・レッグガードの使用は認める。(色の制限なし)

なお、打者走者が二塁打を打ったとき、装具をはずすためタイムを取ることが試合進行の妨げとならないよう、ベンチサイドのコーチャーが速やかに受け取って進行に支障の無いよう務める。

2. サングラスの使用について

サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。

ただし、投手はミラーレンズサングラスの使用はできない。

また、野手がサングラスを帽子の庇の上に乗せることを認める。

3. バットの使用について

バットは改造、加工したものは使用できない。

ただし、後付けフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたならかな形状のものであれば使用は認める。

4. 手袋の使用について

手袋は次の条件を付して使用は認める。

- ①投手の使用は認めない。(規則 投手の禁止事項)
- ②リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。
- ③走者が手袋を手握るだけの行為は認めない。

5. 投手のサポーター等の使用について

投手が手首や腕にリストバンド、サポーターなどを使用することを禁止する。

なお、負傷で手首に包帯等を巻く必要があるときは、担当審判員に申し出て許可を得る。

6. スパッツ系のアンダーシャツについて

スパッツ系のアンダーシャツについて、使用を認める。

なお、全員が同じものを着用することが望ましい。

7. アームスリーブについて

野手は、片袖のみ使用することができる。(色の制限なし)

投手は、両袖の使用とする。(アンダーシャツと同色)

8. ユニフォームについて

同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。
ただし、スパイクを除く。

ユニフォームの背中に選手名を付ける場合は、全員が背番号の上にローマ字で姓のみとする。
ただし、同姓の者がいる場合は、名の頭文字を入れてもよい。

9. グラブについて

用 具	位 置		
	捕 手	一塁手	捕手・一塁手以外の野手
キャッチャーミット	○	×	×
ファーストミット	○	○	×
グラブ	○	○	○

安全上、捕手はキャッチャーミットの使用を推奨する。

	投 手	野 手
本体カラー	捕球面・背面・ウェブは 2 色まで可 ただし、白/グレー/PANTONE の色 基準 14 番より薄い色の使用は禁止	制限なし
ハミダシ	制限なし	制限なし
へり革	制限なし	制限なし
紐	制限なし	制限なし
縫い糸	制限なし	制限なし
指掛け	制限なし	制限なし
刺繍	氏名・背番号・チーム名などの刺繍糸 の色、大きさ共に制限なし	制限なし
柄模様	制限なし	制限なし
商標	制限なし	制限なし
マーク類 ラベル	制限なし	制限なし